

共生・協働の 地域社会づくり

みんなで支える地域社会

〈薩摩川内市〉

青瀬地区コミュニティ協議会

TEL 09969-5-0952

- 地域資源の活用による地域活性化
- 地区内外の交流促進 など



助八古道を歩こう会



会長：東氏 主事：江口氏

一人ひとりの力と地域本来の魅力で みんなに愛される青瀬を目指します。

地域資源の活用で 地区内外の交流を

青瀬地区は薩摩川内市下甕島の東海岸沿いに位置し、眼下に真っ白な砂浜が広がる集落に、110世帯、180人（高齢化率は35%）が暮らしています。

地区にはユネスコ無形文化遺産のトシドン、青瀬ヤンハ踊りなどの郷土芸能や、定置網に適した豊かな漁場などの地域資源があります。

青瀬地区コミュニティ協議会は、地域の中学校、幼稚園、などと連携を図りながら、地域の資源を活かした住民主体の活動を展開しています。

青瀬から山を隔てて西海岸沿いにある瀬々野浦との間には、かつて生活道として使われていた約6キロの古い山道があります。

地区では、数年前からこの山道の再整備に着手していた瀬々野浦集落と協力して、山道の復活に取り組み、両地域の住民同士には助け合いの機運が育まれました。

また、この取り組みは、地域おこし協力隊員の活躍もあり、

地区内外の人々の交流促進にもつながっています。

この結果、かつての生活道は「助八古道」と名づけられ、みんなで楽しく歩けるトレックコースに生まれ変わりました。

現在は、3回目となる「助八古道を歩こうかい！」に向けて新たな案内板の設置などに取り組んでいます。

また、青瀬地区コミュニティ協議会では、自主財源の確保に向けて、ツバキや柑橘類など青瀬の産物を活かしたコミュニティ・ビジネスにも取り組んでいます。高齢者にミカンの皮を剥く作業などに参加してもらうことで、生きがいづくりにもつながります。



柑橘類の収穫風景と協力者

住民にも出郷者にも 愛される青瀬へ

今年、出郷者が一緒に里帰りし旧交を温められる機会を設けようと、6月の第1日曜日を「青瀬の日」と定め、地区コミュニティセンターで集いを開きました。出郷者との交流が、地域の活性化につながることを期待しています。

高校進学に伴い若者が島から離れていくなか、地域活動には高齢者の力が頼りですが、将来を担う若い世代を育成していくことも青瀬の課題です。

「何もないから、何でもできる」をモットーに、住民一人ひとりの個性や能力、まだまだ眠っている青瀬の自然や歴史などの資源も活かして、住んでよかった、訪れてよかったと思ってもらえる青瀬地区を目指します。



青瀬の日の祝宴「青瀬ヤンハ」

共生・協働の地域社会づくりや
NPO 法人に関するお問い合わせ

■ 共生・協働推進課(県庁 9 階)

TEL 099-286-2241

■ 共生・協働センター(かごしま県民交流センター内)

TEL 099-221-6613

関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。